

第63回市民ふれあいトーク 【働く人が考えるまちづくり】

日時 平成27年10月29日 18:30~20:00

場所 ライフパーク倉敷

要約版

市長

今日は平日の夕方大変お忙しい中、お仕事の帰り、もしくは夜遅くからのお仕事の方もいらっしゃるかもしれない中で、この市民ふれあいトークにご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

この市民ふれあいトークは、大体毎月1回、市長と市民の皆様がこういう感じで、私から、今の市の状況、重点を置いていることとかについて、お話しをしまして、皆さんが関心を持っていらっしゃる、市に聞いてみたいこと、意見を言っていて、お互いにやり取りをし、この場ですぐ答えられることばかりじゃないですけど、私といたしましては市民の皆様が、今どんなことに関心を持ってくださっているのかとか、そういうことを教えていただいて今後の市政の方針の方に参考にさせていただきたいと開催をしているものでございます。

こんな感じで地域ごとに公民館で行いましたり、今中学校区が26あり、その公民館で行いましたり、テーマごとに子育てとか、スポーツとかなどでやってきておりまして、今回が63回目となります。市の広報紙などでは広報しているんですが、ちなみにこれまでにこの市民ふれあいトークのことを知っていた方はどのくらいいらっしゃいますでしょうか。ほとんどいらっしゃいませんね。分かりました。そういう意味でも今回、これまでも子育てとか、スポーツとか、地域の公民館でという場合に、結構その地域に関心を持っておられる方が、割と年配の方と言いますか、リタイアされた方が結構出てきてくださることが多かったものですので、なかなか現役で働いていらっしゃる方、子育て中の方とか、若い世代の方と意見交換が割と少なかったものですので、今回、連合倉敷地区協議会にお願いをいたしまして、このような会を設けさせていただきました。ですので、最初に私がちょっと10分が15分くらいお話をいたしまして、皆さんとの意見交換という形にさせていただこうかと思っておりますのでよろしくお願い致します。

何かちょっとパワーポイントのようなものが良かった方が良いかと思って、講演とかで使っているものを持ってきました。今倉敷市が置かれている状況、また倉敷が日本全国の中で、県の中で置かれている状況ということがあると思うんですけども、昨年ぐらいから地方創生ということで、その前段として今後、今2015年ですけども、あと50年ぐらいしたら今の人口が、今1億2千万に人口が8千万人になるかもしれないというのが去年の大体春ぐらいに、結構全国的に課題になりまして、そういうことがあって例えば東京一極集中をもっと是正しないといけないとか、それから子育て支援をしてその地域に若い人がもっと増えるようにしていかないとけないというような議論が、起こり始めたというのを皆さんも聞かれたことが多いのではないかなと思うんですけども、そういう中で倉敷市、また岡山県が、全部説明するわけではないんですけど、どういう状況になっているか少しお話をさせていただきたいと思います。

左が倉敷市の右が岡山県の人口の増減を出しております。上が人口が出生数と自然動態というのは、生まれた方と亡くなられた方の数が自然動態ということで、この赤いグラフの所が上と下の差し引きのところ。倉敷市では、生まれた方が亡くなる方よりも

多いという状況になってまして、それでこちらの右のグラフの方が岡山県全体で言いますと、今現状は1年間に生まれた方よりも亡くなられた方の方が約5千人近く多いという状況になっています。そして人口の大きな分が自然動態という生まれた方と亡くなった方の数の差、それから社会動態と言いまして、この倉敷市に来られる方と出て行く方の差が社会動態で一応倉敷市は転入されて来る方が転出の方よりも多い状況になっていますが、岡山県は転出をされる方の方がちょっと上がった方もするんですが、ここしばらくは結構多いような状況になっています。これは年齢層別の転入転出の方の差です。こちら辺のぐんと上がっているのは、倉敷市では大体20代後半までくらいの所で、転入してこられる方が非常に多い。つまり就職を倉敷市にしてくださる方が多いということでもぐっと増えているわけですが、逆に岡山県の全体で見るとこの20代から30代前半まで、20代後半くらいのところまで、多くへこんでいるのが、大学を卒業されてから就職をする時に県外に出て行ってしまっている方が非常に多いというのが、このグラフということになっていまして、それでどうなっているのかと言いますと、これが全体像なんですけれども、さっきのグラフのようなことがある中で倉敷市全体は一応大体同じくらいの人口を今からあと20年くらいか、30年くらいは行けそうなんですけれども、高梁川流域、あとでお話しますがいわゆる備中地域、岡山県の西側の所は、数年前ですが78万人の所が64万人くらいにあと30年経ったらなってしまうだろうと。岡山県が今195万人くらいなんですけれども、それが160万人くらいになってしまって、約30万人近く減るのではないかというふうに言われています。それでなぜ初めに人口のお話をしたかと言いますと、町の大きな活力は当然人口が多い、働く場所が非常に多くて皆さんが活発に活動していただいている、そして健康で長生きをしていただけるような素地があること等々があると思うんですけど、今実は倉敷市では大きく方向性としてここに書いてあります7個くらいに力を入れて進めているところでございます。「子育てするなら倉敷でと言われるまち」、「年配の方が健康で生涯現役で暮らせるまち」、さっきちょっとグラフで見たとお思いますけれども、生まれてくださる方が多いということ。それから年配の方が長生きしていただくということ。それから「災害に強く安心して暮らせるまち」、元々災害が少ないわけなんですけれども、最近やっぱり豪雨とかも出てきてますので、安心して暮らせるまちじゃないとなかなか人は住んでくださらない。そして皆さんのお仕事にも大変関係がありますけれども、「地域経済が元気で人が集まるまちづくり」、そして「都市機能が高く、環境に優しいまち」、そして「行革の実行と市民との協働のまちづくり」ということと、あとでちょっとお話しますが、倉敷市だけではなくて、高梁川流域の今7市3町なんですけど、皆で人口減少の社会に対抗していきましょうよというのが、今のまちづくりの大きな方向性で頑張っているところでございます。

実は子育てのところで最近の状況だけ少しご報告を申しますと、私が「子育てするなら倉敷で」ということで強力に進めていますので、割と皆さんから「倉敷は子育てしやすいんだな」と言っていたことが多いんですけど、これは倉敷市の合計特殊出生率と言いまして、よくテレビで人口減少の時に出てくるんですけど、一人の女性の方が一生の間に子どもさんを大体何人生まれるかというのが、この合計特殊出生率というものの目安です。それで一番下の緑の分が全国平均ということで、大体1.4某で去年に比べて今年はちょっと下がっています。岡山県は今1.49ということで、全国平均よりはちょっと高いです。そして倉敷市はどうかと言いますと、前から少しは高かったんですけど、実は

ここ最近非常に高くなってきており、去年1年前が1.61、昨年は1.63ということで倉敷市の合計特殊出生率は大きな人口の都市の中では、非常に多い数というふうに今全国から注目されております。ちなみに岡山市は確か1.48くらいで、倉敷市とは差があるんですけど、倉敷市は子育てしやすいまちということで、結構最近皆さんの中でも周りに子どもさんが二人、三人いらっしゃることも多くなっていらっしゃるのを気付かれる方もいらっしゃると思うんですが、そういう方向になっています。

今倉敷市が大きく力を入れておりますのは子育て支援。今年平成27年度から、子どもさんのことでは子ども子育て支援新制度というのが新しく始まり年配の方向けのは地域包括ケアシステムという介護とか医療とかにもっと力を入れていきたいと思いますという仕組みが始まったり、災害に強く安心して暮らせるまちということで、倉敷市は瀬戸内海は元々災害が少なかったですので、自主防災組織率も低かったんですけども、最近少しずつ高くなってきているということで、災害に強く安心して暮らせるまち、地域経済が元気で人が集まるまち、皆さんがお仕事をしていただいているコンビナートの企業の皆さん、本当に倉敷市のまさに経済を支えていただいているというふうに思っております。一番最近の統計でも、それぞれの市の中で製造品出荷額が毎年発表されるんですけど、倉敷市は全国で4番目にこの製造品出荷額の金額が多い都市というふうになっておりまして、大体額が4兆3千億円くらいということで全国で4番目になっております。1番目は確か豊田市さんで自動車、トヨタ自動車の数も多いということもあるんでしょうけれども、8兆円くらいだと伺っております。それから2番目と3番目は京浜の市原市さんと川崎市さん、やはりコンビナートが有る所が大きいということで、それに次ぐ倉敷市が4番目ということで、そういう製造品、産業の部分、それから勿論地域経済という意味では、観光産業とか農業とか漁業とかということも非常に倉敷市では力を入れているということがあります。そして都市機能が強く環境に優しいまちということで、市内の公園の整備でありますとか、交通網の整備を進めてきておりますが、皆さんの方からはまだまだあそこはどうなっているのかなというご質問ももしかしたらあるかもしれませんが、市としてはなるべく市の面積が354平方キロメートルでして、真備町と船穂町と平成17年8月に合併をしましてから、50平方キロくらい増えまして結構広くなりましたので、なるべく市の中で行き来しやすいように道路の整備とかを頑張ったり、全部市道ではないですので県とか国にしっかり頼んでというのでも進めております。行革と市民協働ということと、高梁川流域ということで、ここに連携中枢都市ということで全国で61カ所の市に名前がポチポチというふうについてあります。実は昨年に人口が日本全国このままだったら少なくなるから、地方の活性化をするために国が制度を変えました。というのはこれまでは国が県の方に言ったり頼んだりして、県の方が市の方に言ってこれをやってくださいという形で、色々国の補助金とか、お金の流れも決まっていたんですけど、それが県ですとどうしても範囲が広がったりこれまでの仕組みで縦の仕組みだとなかなか進んでいない部分もあったということで、国はもうちょっと各市の方に力を入れて、市と共同で色々やってみようという制度を昨年に作られました。で、ここに名前が書いてある北は旭川から南は那覇まで、連携中枢都市というんですけども、大体人口が20万人以上で一定の規模の市で政令指定都市や倉敷市のような中核市、それから特例市といわれる20万人以上の市で、東京、大阪、名古屋辺りの既にかなり発展している所を除いたところにもっと頑張ってもらおうということで、国が直接、市と色々な施策を協働してやっていこう。それにあたっては、

このそれぞれの地域は自分のところだけじゃなくて、例えば福島県だったら福島市と郡山市といわき市とあるんですけど、県内で例えば東側と真中と西側とか、自分だけじゃなくて自分が経済的なつながりが有る所で、これから一緒に発展していこうという所に連携して色々な施策を打って行く時には、国が直接補助をしたり支援をしたりとかをしますよという仕組みにしたんです。それで実は平成26年度に倉敷市はこの仕組みに手を上げてまして、ここに紫色で書いている姫路市と福山市と倉敷市と宮崎市と一緒にこれをやろうということになりまして、ここは播磨圏域、ここは高梁川流域圏域、ここは備後圏域、ここは宮崎圏域ということで、岡山県だったら東と西で岡山市と倉敷市で、自分たちで決めるので重なってもいいんですけども、福山市は広島県の大体東側は福山市さんが担当して皆で頑張ろうということが決まったのがこれでした。つまりこれから人口がどんどん減っていく中で、大きな市は自分たちが自分のところだけじゃなくて、その近隣のところと一緒に発展して行って、経済発展にもつながるような施策を打ってもらいたいというのがこの施策です。こういうことで今倉敷市は頑張っております。

これから皆さんの方から質問とかご意見と、あれはどうなっているのかとか、自分はこう思っているんだとか、教えていただけますと私が見る範囲でお話をさせていただいて、意見交換という形にさせていただければと思います。今、お話ししたことでも、全然関係のない事でも結構ですのでお願いをできればと思います。今日自分がこれを言ってみようかなと、思っていることがある方は手を挙げていただいてもよろしいでしょうか。ありがとうございます。では手を挙げていただいた方の中で、今回この会をお願いをいたしました、そして倉敷市の将来戦略で委員にもなっている倉敷地区協議会のA議長さん、一番最初の口火を切っていただけてよろしいでしょうか。

参加者 A さん

私の方から交通関係で、市長に要望というか確認したいことがありまして、多分ここにおられる皆さんも全員経験されていると思いますけれども、通勤時間帯、あるいは退社時間帯に色々な所で渋滞を感じられていると思うんですけども、そうした中で特に高梁川を行き来する車で渋滞が激しいのかなと思っております。そうした中で以前言われていましたバイパスの2車線化等々も含めまして現在の進捗状況、あるいは今後の計画を教えてくださいなと思います。

市長

大変具体的に分かりやすくご質問ありがとうございます。多分この高梁川大橋のご質問ではないかと思えます。いわゆる国道2号、バイパスのことだと思うんですけど、国道1号の次ということで国の中でも非常に基幹道路なんですけれども、非常に混んでおりまして、でもこの倉敷市の新田あたりの所から高梁川に向けては4車線化をしてきたと思うんですけど、確か去年の9月からこの橋を4車線化するというので、これは国の道路なんですけれども市の方からずっとお願いをして参りまして、やっと川に橋が入る所の色々な権利の交渉なども進みまして、平成26年の9月から大体5年間ぐらい、もうちょっとしばらくかかるんですけども、5年間ぐらいで平成31年度中ぐらいまでにはこの橋ができるようにということで、今国の方が工事を進めていただいております。ちょっとそれに関連してちょっと申し上げたいんですけども、そこからずっと西の方に行きますと、

唐船のあたりの所が、今年の3月に玉笠道路の第1区間として、一番混む唐船の所が少し良くなったんじゃないかと思えますけれども、ここの道路が通じましたのと、それからこちらのJFEさんの前の所とクラレさんの所を結ぶ水島コンビナートのこちら側と玉島ハーバーアイランドを結ぶ橋ということで、ここも今27年度ですから28年度中に一応開通するというので国の方が整備を進めていただいております。それでこの橋も最初はコンビナート同士を結ぶ橋ということで、歩行者の方とか自転車の方が難しいということだったんですけども、地元の方から色々要望いたしまして、一応車だけじゃなくて自転車、歩行者の方も通れる部分を作って頂けるといって要望もかかないましたのと、それから今上手の方で、水菱プラスチックさんのすぐ前の所の橋、さっきのは両方とも国の橋なんですけれども、倉敷市が平成17年8月に真備、船穂と合併して今年で10年ということをお知らせしましたけれども、その合併の時に真備、船穂の方に向けて橋をかけて、行き来をしやすいようにしてもらいたいということが合併地域の皆さんの一番大きな事項でしたので、そこを今進めておまして、イオンからもうちょっと西に行った所から柳井原に向けて倉敷市の橋をかけておまして、それは一応今の計画では来年の1月中ぐらいにオープンをする予定で考えております。ですので、市内の大きな基幹道路とそれといくつかの環状線もあると思うんですけども、今一番混んでいるのはこのあたりの倉敷の駅周辺が非常に混んでおまして、駅の高架の事業を県の方に是非やってもらいたいということで、ずっとお願いをしてくれているんですがなかなかもらえない状況ではあるんですけども、何とか市でできる部分からは進めていっている状況でございます。1日でも早くできるように頑張ります。

参加者Bさん

冒頭市長からもお話がありましたとおり、地方創生ということが求められているなかで倉敷市においても将来のビジョンというものを掲げていると思うんですけど、倉敷市は我々が働いている水島コンビナートを中心に多くの企業が集まっているのが強みで、雇用や製品を生み出しているわけですけども、更なる競争力の強化というのが強く感じております。その辺に対して倉敷市として、水島のコンビナートを強くしていくために何か施策、方策、展望があればお聞かせ願えたらと思います。

市長

大変重要なご質問をいただきまして、誠にありがとうございました。先ほど申し上げました製造品出荷額の4兆3千億円という金額は倉敷市、岡山県全体で言うと岡山県全体の工業品出荷額の約半分ぐらいになるんですけども、当然割合というのは倉敷市の中に占める割合というのは90%ぐらいになります。ですので、本当に大きな工業製品出荷額を皆さんが頑張っておいて頂いているわけございまして、少しでもこの地域に再投資をしていただいたり、それから大きな企業さんでいいですと再投資をしていただいたり、多くの企業さんが大体この水島に立地していただいて50年近くなってきましたので、再度ここに新しい投資していただく、もしくは工場を新しく建て替えていただくということをしていただくというのは非常に大きいと思えますし、それからもう一つ大きなことで考えていきたいと思っているのは、他の地域、もしくは今後直下型地震等で危険性が高まっていると言われる東京、京浜とか、その地域からその企業さんに移転をしてきてもらいたい

というところが、すごくこれからの東京一極集中の是正という意味では大きなポイントがあるのではないかと考えています。それで倉敷市の施策で設備投資の促進奨励金と言いまして、この新しい分野の工場の設備投資をしていただく時に、倉敷市、勿論県の部分もあるんですけども、設備投資の方に一定の金額なんですけれども、何十%、いくらについてどのくらい、例えば固定資産税分のもを市の補助としてお出しするという仕組みが実はありまして、それは他の仕組みというのは、例えば四日市さんは他のコンビナートとある意味競争をするようなことなんですけど、そういうことも整備しています。それから今年、実は地方創生の会議で、私が地方創生の有識者メンバーということで会議に出ているんですが、その時に言いました大きな分が、今言っていましたように東京から地方に企業や工場を移転してもらう、もしくは本社を地方に移転してもらう時に税制優遇措置を国として認めて下さいということはずっと主張していまして、実は27年度の税制措置から初めて東京から3大都市圏以外に本社機能を移転する場合には、税制優遇措置をしますというのが初めて導入されたというのがあるんです。ですので、倉敷市もその誘致をやっていきたくて思っているんですが、でも、それだけすぐパッと本社が移ってくるというのは、なかなか難しいと思いますので、1つにはうちがちょっと目指しているのは、第2本社ですね 本社の代替機能を持つ地域として頑張っていきたいというのが1つあります。ですので、東京に本社があるけれども、第2本社代替機能をここにちゃんと企業のBCP（事業継続計画）にも書いていただいて、そうしたら、補助金を本社機能を移転する、第2本社機能を移転する時に奨励金を支援をさせていただきますというのを作ったりということ例えばコンビナートさんとかではやっていましたりとか、それでさっきも言いましたけれども、この水島コンビナートと、水島と玉島を結ぶ橋を付けることによって、行く行くはこの橋もバイパスをつなげることによって、1つはJFEさんとこちらの例えば生活道路をこの玉島の霞橋等とかと工場とかのトラックが別れたりして、市民生活も安全になるし物も速く運びやすくなったりということで、こういう大きな橋を整備したりということと、今もう一つ国の方とやっておりますのが、この水島の港自体を平成23年の5月に国の国際バルク戦略港湾に指定をしてもらっているんです。それは何かと言いますと、日本の色んな港がありますが、この港とか、広島港とか、北九州とか大阪とかあるんですけども、その中でこの日本の水島だけを栄えるということじゃなくて、日本の企業もしくは水島が指定されているのは鉄鉱石と穀物なんですけれども、この鉄鉱石と穀物がこの港を使うことによって非常に国際的に競争力が上がるというような仕組みを今作っているところです。例えばややこしいんですけども、例えば穀物、飼料で言えば、この水島の地域は瀬戸埠頭さんの所とパシフィックグレーンセンターさんの所と、それから今は玉島ハーバーアイランドに農協の全農さんがあと3年ぐらいしたら工場ができるということで、大きな進出をしていただけることになっています。それ自体で大変ありがたいんですけど、この国際バルク戦略港湾に指定されたことによって、今皆で仕組みを相談していただいているのは、1つには大きな船を、パナマックスとかポストパナマックスという大きな船があると思うんですけども、それが1社1港ずつ寄っていったら、お金が1+1+1で3かかるんですけども、それをポストパナマックスという大きな分にすれば、1つに寄ってちょっと軽くして2つ目にパシフィックグレーンさんに寄って、3個目の全農さんに寄ってという形にすれば、輸送代だけでも60億円ぐらい1年間に輸送代が下がりますというのが。そういうことを共同してやっていこうということを計画して、そ

れを国の方にそれをやるから、ここをもっと深く、今は12メートルですけれども16メートルに掘ってください、16メートル、14メートル、14メートルということ国に要望しているんですけれど、3社で共同してやるんで、国は航路を掘ってくださいということをお願いしたりとか、それぞれの企業さんへの設備投資の支援の部分とこういう大きな道路だったり、航路を深くして、もしくは航路の岸壁の耐震化をしたりしてですね、仕事を進めるのがコンビナートさんの競争力の強化について頑張っているところでございます。

国際バルク戦略港湾において、食料コンビナートの競争力を強化するために、より大型の船舶で原料を運搬することで効率化を図る必要がある。そのため、水島港内の3社が連携し、1船で3つの港を回れるよう、航路を深く掘るよう国に要望している。

パナマックスはパナマ運河を通過できる船の最大の大きさで喫水12メートル。ポストパナマックスは拡張後のパナマ運河を通過できるパナマックスより大型の船で喫水16メートル。現在は、パナマックスが減載して水島港へ入港している。

参加者Cさん

先ほどのお話の中で、「子育てするなら倉敷で」が出てました。子ども子育て支援新制度の施行に伴い、全国的に安易に幼稚園と保育園を認定こども園にしていく自治体が多い中、倉敷市は、幼稚園と保育園が、それぞれこれまで行ってきた教育を大切に、既存の幼稚園・保育園の存続を前提に、幼稚園・保育園の適正配置計画を、進行して下さっていると聞き、大変ありがたく思っております。この認定こども園や幼稚園の預かり保育、それから3才児保育により、待機児童解消に努めていることは、女性が働きやすい社会にしていこうと、大変重要なことだと思っております。市民のニーズに込えているものであり、大変このことをありがたく思っている市民の皆さんも多いのではないかなと、思っております。その時に、私たちが望んでいることですが、これまで以上に安心して、働く人が働ける、生活ができる、幼児教育および保育の場の提供を望んでいます。全国的に待機児童が問題となっております。が、同時に幼児教育や保育現場の不足も問題になっているかと思えます。まあ、潜在保育士も多いということ、その発掘の方もしていくということも聞いております。質の高い幼児教育、保育教育の総合的な提供、市民のニーズに込えるためには、やっぱり人が必要かなと思っております。そんな中、つい先日財務省の方が、義務教育の教職員定数の削減案を出したりしてました。まあこれ、私が思うに、とんでもない話だなと思ひ、教育の充実に逆行し、それと同時に市民が安心して働くことや生活することが出来なくなってしまうことが心配されます。ですから倉敷市が幼児教育および保育現場、それから小中の義務教育の方にもたくさんの人が携われる市であってほしいと思っております。あえて、想いの方を話させていただきました。ありがとうございました。

市長

ありがとうございました子育てのこと、教育のこととかをお話していただきましたけど、子育てとか教育のこととかで、話してみたいとか、奥さんから、今日、これ聞いてとか言われてきてたりしたら。では、そちらの方、お願いします。

参加者Dさん

今まで私、子育てをしながら働いてきたわけですが、今度は私の子どもが子育てをする世代になっています。その中で、今まで私は難なく両立できたんですけど、今のうちの子どもは、子ども達だけの世帯なので、働こうと思ったら、保育園に預けなきゃいけなくなって、たちまちその問題でどうするということになってるんですけど、その待機児童のあたりのことを教えてほしいと思うのと、私の職場にも、子どもさんを預けながら4月から働いてらっしゃる方がいるんですけど、自分たちが月に1回なり2回なりお休みがあるでしょ、その時は、子どもを家で見てもらえないかと言われるんだそうです。ということは、人が足りてないから、負担を軽減するというわけじゃないかもしれないんですけど、その辺からそういう話になるのかなと思うので、保育園で働く方の人数というか、現場の状況も合わせて教えてもらえたらと思います。以上、よろしく願いいたします。

市長

はい、ありがとうございます。他に保育関係でないでしょうか？それではどうぞ。

参加者Eさん

内容がかぶる点もあるんですけど、現在働いているということで、今後出産とか育児になった場合、先ほど「子育てするなら倉敷で」ということでお話をお伺いしたんですけど、倉敷で子育てすることでこういった支援が、他の市と比べてあるのか、そういう点をお聞きしたいと思います。

市長

はい、ありがとうございます。今3人の方から子育てとか教育のことについて、ご質問をいただきました。それで、さっき倉敷市の子育てについて合計特殊出生率という面で、数値が上がってきているというお話をしたんですけど、先ほどの方からも、まあまあよくやってるんじゃないかと言っていただいて、ありがとうございます。先ほどの子育て支援についての政策は、倉敷の方ではどうかと言うことも言われたんですけど、主に妊婦健診、つまり倉敷市では子どもさんを妊娠されてから、そして出産、そしてその後保育園、幼稚園に、そして学校に行かれて、そのまま学校の高学年になっていくまで、わりと切れ目なく支援をできることを考えて、これまで政策をやってきております。それで、わたしが平成20年に市長に就任をさせていただいてから、一番最初に取り組んだのが、やっぱり、出産の所から順番に来るので、妊婦健診の公費負担回数をそれまで5回だったのを一挙に14回までに拡大をいたしました。これ、平成20年の9月なんですけど、国はその後、半年ほどしてからされたんですけど。まずここから取り組みをしまして、それから今度は子どもさんの病院の医療費を、それまでは無料化の対象が小学校の入学前までだったんですけど、それが現在は、通院は小学校の6年生まで、入院については中学校の3年生までに拡大をいたしました。そして、先ほどの方のご質問でよく言われるのは、子ども医療費がどうなっているのか、市によって違う、違わないと質問されることが結構多いんですけど、子ども医療費については、倉敷市や岡山市のような人口が多い市については、なかなか無料化をするのが難しいので、県内の中でも割と後でこの無料化の政策をせざるを得ない状況です。で、私もこの無料化をするときに、小学校6年までの医療費無料化をするときに1年間に10数億ぐらいのお金が新たにいるということになりますので、それを1回する

と、そうそう簡単に縮小するというのは難しいので、そのお金をその後も確保できるという大体の目安がないとできないので、そういうことを見据えてからやるということなんですけど、確か岡山市さんがまだ小学校の入学前か低学年くらいだったと思うんですが、でも岡山市さんも県内で最後になったんですが、今後順次、最初は3年ぐらい拡大してそれから6年ぐらいまで拡大していくということで、多分少しずつ拡大されるんじゃないかと思います。今現在は倉敷市が上を行ってますけど、でも倉敷市がこの分野で県内で一番早くこれをやったということではありません。ただ、全体トータルで倉敷市が取り組んできているということで、例えばこの保育園ですね。しばらくずっと保育園を作ってなかったんですけど、ここ6年間でですね、新しく保育園を7つ新設いたしましたして、定員を拡大しましたり、今は小規模保育と言いまして、きっちりした保育園とは違いまして、もっとちょっと小さい、定員が19人ぐらいまでのものをしていただいたり、もしくは事業所内保育ですね、いくつかされているところもあるんですけど、中央病院さんとか、記念病院さんとか、事業所の中で保育園を、事業所として保育園をします。ただ、事業所の方だけでなく、地域の方も大体4分の1ぐらい入ってもらえるようにするということによって、国からの補助も出ますという制度が、実は新しく、この平成27年度からできたので、そういうのも認可をして増やすということをしているのと、それからこの学童保育、つまり児童クラブですね。お母さん方が言われるのは、先ほどの方も言われたように、保育園に入れないから働きに行けない。それから今度は、保育園に入って、何とか小学校に上がったんだけど、今度は小学校に上がったら、子どもが低学年なんだけど当然早く帰ってくるので、午後までずっとフルタイムになかなか働けない。だから学童保育、児童クラブに預けられないと、そういう仕組みをやっていなかったら、まあパートで4時間ぐらいしか、午前中しか働けないというお話が結構あったものですから、倉敷市の場合は、この児童クラブ、学童保育の受け入れを、原則小学3年生までだったんですが、平成21年に小学校6年生までに拡大をいたしました。それによって非常に働く方の数も実は増えましたし、ちなみにこういうことが非常に効果があったということで、国の制度拡大はそれから6年ごろ、今年の4月から原則小学校6年生まで学童保育を受け入れていこうということになりまして、実はこれが効果が上がった一つの大きな例なんですけど、施策を始める前の平成20年の時と、施策を行って6年後の今の段階で、市民税の特別徴収者数、これはつまり何かと言うと、お給料から市民税の天引きをしていただいている方の数ということです。ある程度お給料をとっていただいたりとか、短期でぱっと辞められるような仕事じゃなくて、ある程度長く働かれていますの方がこの対象になる場合が多いんですけど、前は4万4千人ぐらいの女性の方がこの給料の天引きで市民税を払っていただいていたんですが、今はそれが4万8千人と言うことで、4千人ぐらい、つまり1割ぐらい増えたという状況になりました。つまり子育て環境を整えることによりまして、女性が働く機会が増え、社会の中で今、人材不足が言われておりますので、以前、技術の分野にも女性の方が進出するようになったということで、経済の活性化にもなっているのではないかと考えております。倉敷市の施策の中ではさっきの子育て支援が一番、さっきの合計特殊出生率が必ずしもこれによって上がったかどうかは分からないんですけど、よくお母さん方が言われるのは、生んでも保育園に入れて働きに行けるようになったから二人目生みましたよとか、結構最近、今年の夏お祭りに行ったら、割と3人目の子どもさんを持たれている方がたくさん、去年よりも増えてきているように感じて、ちょっと聞いてみたら、割と最近周りにも増えてきて

ますよということだったので、そういう環境があるようになったらですね、みなさんも安心して産んでいただけるのかなと思っています。それで小学校になりましたら、学校でしっかりお勉強をして、社会性も身に付けていただきたいと思っているわけですが、市の方でもなかなか、最初に言われたように、教員の方の配分が県の方からなかなかない、ということがあって。その元はきっと国からですね、教員の方の予算が下りてきてないからだと思うんですが、倉敷市ではなるべく、支援が必要な子どもさんがいらっしゃる学級に、支援員の先生をなるべく配置をしたりすることで、先生が勉強を教えることに集中していただけるような環境に、ということで頑張っております。大体そんな感じではございます。

参加者 F さん

最初の6項目についてですが、先ほど、「子育てするなら倉敷で」ということでしたが、2番目の高齢者、年配のかたについてですが、お話ししたいと思います。高齢者が健康で生涯現役で暮らせる。これは本当に理想的なことです。いわゆるピンピンコロリと。残念ながら、これ、介護が必要になってくる場合があります。その場合、今年介護保険制度が変わりまして、まあ支援の判定とかも変わって、今まで受けられていた支援が受けられなくなることが起こってくると。ということで倉敷市としてもいろんな取り組みをしておりますが、各地域でいろんな見守りをしてくださいと言うお話があるということです。やっぱり地域でやる限り、活動にはお金がかかるということで、その辺の予算の所とかですね、まあこれは、会社のOBさんから聞いたんですけど、まあ会議だけするのではなくて、会議するにも活動するにもお金があると。その辺の予算の所はどうなっているのかと。せっかくの機会だから、ちょっとお前聞いて来いと言われましたので、聞かせていただきました。よろしく願いいたします。

市長

はい、ありがとうございました。この平成27年度から、地域包括ケアシステムというので仕組みが変わった中で、今おっしゃるような、前よりも認定が厳しくなったとか、そういうことは、制度としてはないようでございまして。ただ以前は、ほとんどのところは国の事業としてやりましょうということだったのが、国も予算が、やっぱり社会保障費が増えておりますので、もっと市町村でやってもらえるのを増やしてもらいたい。ただ、そこも国から市町村へ来るお金で賄えるようにはなるはずなんですけど、より市町村で工夫をして、つまりできれば市町村で工夫して、少しでも社会保障費が抑制できればいいなと思いますけど。倉敷市で今取り組んでいますのは、もとの介護の分と、新しく地域支援の制度ということで、この国が変える制度の分で、前は対象だったのに今度は対象じゃないとはならないようにと、当面やっていこうと思っております。移行にあたって、市へ移行しても前と全く変わらないとか、より市で、地域の皆さまとかかわって下さること、例えば地域のサロンとか、また今言って下さったようなサロンをやるにもお茶代がいるとか、そういうことをすることによってもっとお元気な年配の方が増えるから、医療費も少なくて済む、介護にならなくて済むという方向にできれば持って行きたいと思っています。まだ初年度なので、どんどん進んでいるわけではないんですけど、市独自という面で、例えば認知症の方がこれから増えるでしょうが、その認知症の方への理解を進めたり、認知症カフェといって、そこに認知症の方もしくは家族の方が来て、みんなでお話をして、どう

いう風に対応していけばいいのかということ話し合ったりして、また地域の方もそこに来てもらっているいる勉強してもらったりということが出来るようなものとか。そこを専門的なお医者さんに指導してもらえような、認知症初期集中支援チームと国が呼んでいるものをいち早く取り組んでいこうというのに、今取り組み始めたところでして。ちょっとまだ回答としては、お茶代がございませう、とはまだちょっと今日は言えないんですけど、ただ方向としては、倉敷市も国民健康保険の保険者になっていますので、皆さんが健康でいていただかないと、どんどん増えたら、財政が非常に厳しくなってくるので、とにかく年配の方に健康でいただくための政策、例えば実はこの27年度ぐらいから会社のOBの皆さんにご相談させていただいたり、徐々にしていこうと思ってるんですが、OBの方がより健康に注目してもらえような、健康・スポーツの講座とか教室とかを、倉敷市の保健所が行って、皆さんの前で話させてもらおうとか、そういうことから進めさせていただきたいと思っております。本当に団塊の世代の方をはじめ、多くの方が退職される時期になってますので一番いいのは、私は定年自体をもっと、今は定年退職されて嘱託で、という制度だと思んですけど、正式な定年をもっと伸ばしたりする方が、本当はいいのではないかなと思ってるんですが、まだそこまでは行ってないんですけど。とにかく倉敷市としては、すばらしい医療機関が多くあるわけですし、今日も倉敷フレンズと言いまして、倉敷市の還暦軟式野球のチームの皆さんが全国で準優勝されたということで、表敬訪問して下さったんですけど、その時も皆さんが健康で元気でやっていただくというのをほかの方にも知っていただくということにもなるんじゃないかということ。それとあともう一つは、この近くに福田公園がございませう。その中に大きな総合競技場がございませう。そこを今後やりかえをしまして、もっとグランドゴルフとかにももっと使ってもらったりするとか、そういうように、地域の大きな総合スポーツ施設についても健康長寿社会にむけてのやりかえをやっていったりするようには思っております。いまのところはそれぐらいですが、もっといろいろやらないといけないなと思っております。はい、ありがとうございます。

ほんとうに子育ての方は、割と進んできたなとは思ってるんですが、これからは本当に、移住もそうだと思うんですよ。年配の方が、東京の方もそうだと思うんですよ。退職してすごく時間が経たれた方ではなくて、退職前後とか、比較的若い時に移住してきていただかないと、とも思うので。いや、本当の話、そうなんです。移住・定住促進と言われるんですが、皆さんも聞かれたことがあると思うんですが、CCRCという、国から今高齢者の方が地方の老人ホームとかに入りやすい仕組みを考えてくださいと言われてるんですが、なかなかそれも難しいわけ。そうすると非常に困るので、なるべくそうじゃなくて、早い段階で移住してもらえないかというのを進めるというのを頑張っすすめたいなと思っております。

参加者Gさん

自分の方からは災害についてお聞きしたいことがあります。全国的にも異常気象ということで災害にあわれる方が増えてきていると思うんですが、こちらでも3年か4年ほど前に水島の郵便局なんです。台風で川も溢れかえって、そこで仕事をしている人たちが帰れない状況になりまして、道が川がわからなくなる状態で仕事をしまして、その帰りに高梁川は通行止めで大回りして帰った記憶があるんですが。地震とかでも同じなんです。職場の方でもハザードマップ等で緊急の避難場所などを周知させてもらってますが、身近

な感じで水害，集中豪雨ですね。あの時に高梁川がどこまで水位が上がってたか，細かくは覚えていないんですが，もしもの時に高梁川が決壊した時に，まあ雨量や潮の満ち引きにもよるんですが，どのくらいの範囲まで被害がでるかシミュレーションもあると思うんですが避難の判断指示と避難場所について会社，企業を中心に家庭にどのようにシミュレーション，対応を考えているのかお聞かせください。

市長

今年鬼怒川の決壊がありましたので，高梁川についてもですね。総社の方にお住まいの方や真備の方は良くご存じだと思うんですが，分かれていた川を一つにしていたという事もありまして，高梁川もこの部分（酒津）で湾曲して，川上から高梁川が流れてきている中で，真備の方から流れている小田川の水位が中々下がらないというのも真備の方はよくご存じだと思います。つまり，本流の高梁川の流れが強すぎて，雨がどっと降ったら細い小田川からの水がいかないという事で，小田川の水位がどんどん上がって，これまで真備では大きな水害が何度も起こっています。それが，倉敷市の現状ですが，もう一つ，酒津のあたりに高梁川の本流の水と，小田川の二つの水流が当たりますので，水勢が強くなっています。堤防が切れるということは無いけれど，もし切れてしまうと，この倉敷市の色のついていないあたりはほとんど水が来ます。各ご家庭にお配りしている洪水ハザードマップというのを何年か一度お配りしているんですけど，それは，もし高梁川の堤防が切れたときにどうなるのかということで。倉敷市のハザードマップですが，水島地域も低いところが多いという事で，この青のところは，だいたい水が1 mから1.5 mくらい。堤防が切れることは無いですよ，無いですけども，国土交通省がもしもそうなった時にどうなるのかと，避難を呼びかけるために作ったものです。ここにいくつか書いてあります。福田公民館は海拔が1.6 mであるとか，第4福田小学校は海拔が2.8 mだからここは浸からないとか，そういうことを書いて，色との対比でももしもそうなった場合に自分がどこへ逃げるのかを見てもらうためにお配りしているものです。それでは倉敷地区のものを。でこれがもしも酒津のところが切れた場合のハザードマップですが，ほぼ岡山市の近くに至るまで，つまり2 m位はだいたい片島とか中島とか…。それから，倉敷市役所あたりも1.5 m位は，確か浸かるようなシミュレーションになっておりますけれども，こういったことは無いんですけども，鬼怒川の場合は線状降水帯がずっとかかったという事だけではなくて他にも問題があったという事で，そうはならないんですけども，もしあったとしたらどうなるかということで，自分のところを何mか調べてください，というのがこの図です。

それで，ないんですけども，そうならないようにするために，実はこの川の改修を国にしてもらおうという事でこれまでずっと長年に渡ってお願いをして，やっと実現してもらえることになったんですが，先ほど申し上げましたように，もしも高梁川が切れるとしたら…。切れませんよ。切れませんけれども，普通は，一番水勢が強くなっているこの酒津のあたりです。ここにかけられている水の勢いを減らさないといけません。小田川の方は，中々流れてきてもこっちの流れがあるので出ていかないの。今柳井原に貯水池があります。この柳井原の貯水池のところで，小田川から来ている流れは本流の方に行かないで分けて，こっちの柳井原の方に流していきましょと。そうすることで，小田川は水位が高くなりやすいのが防げます。高梁川の方は，小田川があるので，酒津のこの辺のあた

りに非常に圧力がかかっていたのが減りますので、こっちの倉敷地区の方も安全になるということで、この事業を今、国の方で進めていただくことになって、27年度から本格的に。今、耕作をしている方もたくさんいらっしゃいますので、その方たちと交渉をはじめているということです。これが出来るのはまだあと10年くらいかかるとは思いますが、30年もかかるような事業じゃないと思っておりますので、比較的、もともと真中が貯水池で切るところも少なくすみますので、かなり安全になるかなと思っております。

それから、集中豪雨の時の連絡体制。今、市からの情報を緊急告知無線システムで出したりしておりますが、なかなか聞こえにくいというお話も伺っておりますのでもっと色々なもので出さないといけないと思っております。ちなみに、避難勧告をこの前の台風の時に児島の方に出したり、避難準備情報を沿岸部の方で出したんですが、その時に小学校の屋上のスピーカーからその放送が聞こえたなという方、どのくらいいらっしゃいますか？あまりいらっしゃらないですね。わかりました。お家の方にいらっしゃる方は結構聞こえていらっしゃる方もいらっしゃるかなと思ったんですが、今皆さんが聞かれていないという事であれば、もっと色々な情報伝達手段を進めないといけないと思いましたが、いま各小学校の屋上にですね、4方向くらいに向けてスピーカーをつけています。で、そこからだいたい500mくらいの範囲に、避難勧告を出すときには、本庁の防災危機管理室から「地区は避難勧告を出しますので、へ逃げてください」と放送をしておりますので、もし集中豪雨とかありましたら気を付けていただけたらと思います。またメールとかほかの分野も進めないといけないと思いましたが、ありがとうございました。

参加者Hさん

一企業に特化した話になるので恐縮ですが、私の会社は、三菱さんに部品を納めさせていただいている会社で、自動車産業の一部なんですけれども、今国内で自動車の販売台数というのがものすごく減ってきております。それでどんどん部品企業もメーカーさんも海外に工場を出しているのが現状なんですけれども、車ってどうしたら売れるのかということを考えたときに、性能ですとか見た目や機能とかあるんですが、一番は安い車は売れるということなんです。安い車を作ると言うのは簡単ですが、そういったときにやはりコストの面が問題となってきまして、どうすると一番簡単かという直接我々の給料を削減していくというのが一番簡単なんです。これはちょっと極端な話で、そうならないために我々ががんばっているんですけど、そうしてくると我々の方にばかりどうしても負担が来てしまうので、市として自動車メーカーとか部品関係の会社への援助を恒常的にしていこうという動きは無いのかなと思っております。

市長

はい、ありがとうございました。コスト面の要求と言うのが、特に三菱さんの場合は今日産さんともいっしょに作られているという事もありまして、よりコストの事も言われたりという事もあると思っておりますので、厳しいと思っておりますけれども、倉敷市といたしまして特に三菱自工さんは倉敷の水島に長くいただいております、三菱さんをはじめとして関連企業の皆さんも多くいらっしゃるということで、今、販売台数が少なくなっているという事で、タイとかフィリピンとかベトナムの方へ工場をという話を伺ったりしますので、とにかく倉敷市としましては、三菱さんとにかく水島で車を作ってもらいたいという事を毎

年本社の方へお願いしております。それで先日、軽四の新しい次のものを作っていただけという事になりましたので、台数がたしか2018年くらいに次のモデルが出るんじゃないかと思うんですけれども、そこから引き続き水島では作りますと。ただもちろんパーツに対する要求も強くなるというのはあるかもしれないんですが。それと、市がとにかくお願いをしてきまして、実現の方向になっているという風にお返事をいただいていますけれども、次の乗用車をこの水島で作ってもらうということについて、ずっとお願いをしてきていまして、それが前に向かうということとっておりますけれども。とにかく部品メーカーさんに国内で仕事をしていただいて、輸出で海外の方へ出していただけるようになったらいいと思うんですが、今回TPPがありましたよね。一応合意したという事で。あれは国内の自動車産業にとっては良かったという事だと思います。つまり関税の安い賃金の安い他の国で作らなくても日本で、水島で作って、それを他の国へと関税のかからない状態で輸出出来るので、部品を作ってそれごと輸出する、ノックダウンっていうのでしたっけ、ノックダウンも日本でよりやり易くなるんじゃないかと思っています。とにかく市の方向としては、すいません部品メーカーの方に支援の補助金を出さず制度は無いんですけれども、とにかく岡崎じゃなくて、パジェロの岐阜じゃなくて水島で車を作ってもらいたいということで、お願いをお願いを重ねていますので、仕事を頑張ってください。よろしく申し上げます。

参加者Iさん

地域へ情報を伝達する代理をしていただきましてありがとうございます。倉敷市のまちづくりというところでは地域経済の部分、先ほどから説明をいただいた通り、製造部門というところからすると出荷額も伸びている、また雇用状況としても伸びていると思っています。地域経済が好循環のサイクルを回していくためには消費という部分も大事なのではないかなと思います。それが倉敷市で消費することになると、観光資源であったりとか、商業資源であったりとか、ここらへんがどうなっているのかなというところで、地産地消でなくても他所から来てお金を落していただくためには、倉敷市としてどんな施策があるのか。もちろん観光資源というところでは瀬戸大橋があり、美観地区があるというところがあるけど、これも年々順位が落ちてきているというのが現状なのかなと。まあ、潤沢な予算があるわけでもないでしょうけど、こういったまちづくりに掲げている項目に予算を投じながら、経済を回していかないと目先の製造の増加とかの部分で伸びていっても長続きはしない。やはり経済は循環していかなければいけないので、製造を伸ばし、消費もしっかりできるまちづくりをしていかないと、具体的な施策があれば、教えていただきたいと思います。

市長

はい、ありがとうございました。非常に良いご質問をありがとうございました。スライドの最後の方をちょっと。(スライド表示)さっきこの話をしました、高梁川の。この地域というのは、今のところ倉敷市は人口が増えていますけど、他のところはほとんど、総社市さんと里庄町さんがちょっと増えてますが、ほとんど減っています。倉敷市はこの地域についてみんなと頑張っていくという宣言をしたというのが先ほどのものだったんですけど、それですね、何を具体的にするのかという事が、先ほどご質問をいただいたのとす

ごく大きく関わってきます。まあ皆さん親戚とか親御さんも新見市とかの地域にいらっしゃる方もいらっしゃると思うんですけど、ほかの地域にとっても倉敷市にとってもメリットのある連携をしていくのが大きなブレイクスルーになると思っています。(スライドを表示しながら) 7市3町に訪される方がどのような行動をとったかという携帯電話のビッグデータを使った統計がこれです。今から1年前に、個人の情報は全然分からない形で、そこに住んでいる人とか毎日通勤している人は除いたら、全体を100としたら、50%の人が倉敷市の中心部、美観地区へ来ていらっしゃるいました。それから児島の瀬戸大橋、玉島とか、井原が2.9%とか矢掛が1%になっている。それで、平均周遊回数、1か所来たところプラス他にどこに行ったでしょうかと見てみたら、ほとんどみなさん1.10、平均すると1.07。つまり、そこ一か所しか行っていないというのがこの情報から分かってきました。もう一つ、そこに何分滞在したかというのが分かりまして、平均で3.70時間滞在したというのが分かりました。これを見ると倉敷市にも非常に重要な情報で、まあ美観地区にたくさん来ているのがわかって良かったなというのもあるんですけど、美観地区に来られても、3.70時間しかいらっしゃらなかったら泊まらないじゃないですか、倉敷市に。泊まるのと泊まらないのでは、だいたい2万か3万くらいその地域に落ちるお金が違っているとされていますので、倉敷に来て美観地区に来て泊まってないですよ。他の地域は倉敷より人は来られてないですけど、倉敷に泊まってもらうためにも、この圏域に存在する色々な地域資源を、ほとんど周遊していませんが、周遊してもらった結果として、まあ泊まる場所はほとんど倉敷にしかありませんので、周遊してもらったら倉敷に泊まってもらえるだろうと。だから倉敷と矢掛本陣、それから、高梁まで行けば結構遠いですからね、泊まらざるを得ない状況になってくると思うんで、吹屋のふるさと村とかですね、そこまで周遊して、丸1日やって夕方には倉敷に泊まってもらって、次の日に帰ってもらいましょうというような、そのコースと一緒に具体的にこのデータを使って組みましようとか。それからこれは実は30代、40代、50代の男性、女性とかというも細かく実は出てきてまして、例えば50代の男性の方というのは歴史が多いポイントに行かれているというのがそれに出ていました。だから美観地区と吹屋とか国分寺、矢掛のところの本陣とかですし、それからたしか40代とかで天文とか、自然が好きな方は浅口の天文台とか、美星町の天文台とか、それからもしくは倉敷の倉敷天文台などに行ったりしているというのが分かりまして、それでその3つを例えば組み合わせると倉敷に泊まらざるを得ないとかですね、そういうものを具体的にそれぞれの観光協会と一緒に頑張って開発をしていこうというようなことをやるようになってきております。この具体的な施策の大きな、もちろん美観地区の町家・古民家を再生して新しい人に来てもらうのに加え、高梁川流域圏域でみんな連携して、泊まってもらえるようなものを一緒に組んでいこうと思っています。ありがとうございました。8時を過ぎましたので 今日、みなさんの方から色々ご意見をいただきまして今後の市政に向けての色々参考になり、ありがとうございました。今後ともさっきの大きな7項目に向かって頑張っていこうと思います。また、高梁川流域、岡山県が良くなっていくように頑張っていきたいと思っています。今日は長時間に渡りお話をさせていただきましてありがとうございました。